

JSA 北海道支部ニュース

No. 279 2005. 4.25

日本科学者会議
北海道支部

事務局 〒 060-0807

札幌市北区北7条西1丁目

バームハイツ札幌201

振替 02740-1-6811

TEL. FAX (011)707-2299

Eメール hokkaido@jsa.gr.jp

北海道支部 ホームページ : <http://www.jsa.gr.jp/hokkaido/>

JSA 本部ホームページ : <http://www.jsa.gr.jp>

2005年度支部大会議案	1
2005年度支部大会議案内	5
大野陽朗先生に捧げる	渡辺 昂 6

2005年度支部大会議案

—2004年度活動報告—

1. 支部幹事会

第1回(5/16)は支部大会に引き続き行い、代表幹事に神山桂一氏及び山田定市氏を、支部常任幹事に13名を選出した。

第2回(9/26)は、科学シンポの開催について(テーマは室蘭のPCB問題)、「支部財政問題及び組織強化・拡大」、「『JSAあり方』答申具体化へむけた検討課題」及び「憲法問題」について討議した。

第3回(3/6)は、科学シンポジウムの要綱確認、支部創立40周年行事、支部財政問題及び大学問題などについて討議した。また、2005年度支部大会の日程、議題等を決定した。

2. シンポジウムなどの開催

9月25日に北大学術交流会館で、フォーラム「国立大学の法人化で大学をどうする」を開催した。北大教職員組合、北見工大班、苫小牧高専、酪農学園大からの報告及び産総研の会員からのコメントが行われた。参加は20名余であった。

11月13日に釧路市で、「石炭・エネルギー全国シンポジウム in 釧路」が開催された。科学者会議全国が協賛団体となり、物心両面で支援を行った。

2004年度の北海道科学シンポジウムは、2005年4月17日に室蘭市の室蘭工業大学で「PCB処理の安全性を考える」をテーマとして開催された。報告は、(1)立川裕隆(日本環境安全事業㈱)「PCB廃棄物処理について」、(2)安東毅(JSA公害環境問題委員会)

「PCBの毒性及びその処理問題」、(3) 澤田 研（室蘭工業大学環境科学・防災センター助教授）、「ダイオキシンと培養細胞系を用いた環境化学物質の評価」、(4) 市民団体から「市民の目から見たPCB問題」の4本で、参加者は140名を超える大盛会であった。主催は、北海道支部の他に現地の市民団体を含む実行委員会があたっていた。シンポジウムの報告ビデオ等の普及を計画している。

3. 委員会、研究会などの活動

原発問題研究委員会は、委員会として独自の活動は出来なかったが、原発問題全道連絡会などの活動に寄与した。

公害問題研究委員会は、室蘭のPCB処理問題をテーマとする科学シンポの内容等について議論した。また、昨年度に引き続き、旭川最終処分場閉鎖後の対策について相談を受け検討している。

千歳川治水問題研究委員会、災害問題研究会は、特別の活動は行わなかった。

地球温暖化問題研究会が7月3日スタートし、精力的に研究を行っている。また、大学問題研究ワーキンググループも発足し、第1回の会議を4月7日行った。

個人会員の交流を行っている第3水曜の会は、毎月例会を開き活発な活動が行われている。会としてニュースレターを頻度多く発行した。

支部会員が中心となっている「エネルギー・環境を考える会」は、毎月例会を開くなど活発な活動を行っており、石炭・エネルギー全国シンポジウム開催にも貢献した。

4. 全国企画への参加

「夏の学校2004」(10/9-11・栃木)には、支部から北海学園大学の大学院生3名が参加した。参加募金活動も、活発に取り組んだ。11月、京都で開催された第15回総合学術研究集会には1名の会員が参加、発表を行った。原水禁・科学者集会(8月・大阪)には、代表派遣できなかった。

「日本の科学者」2005.2月号特集を北海道支部が担当した(テーマは、「バイオマスを中心とした北海道における自然エネルギーの現状と課題」)。

5. 平和・民主主義の問題

「国立大学授業料値上げ反対」の新聞意見広告について、支部メールリストで賛同の呼びかけを行った。また、憲法問題について独自の催しは開けなかったが、他団体の取組などに多くの会員が積極的に参加した。

6. 組織・財政

会員増は 名(うち転入 名)、減は

名(うち転出 名)であった(月現在)。会員は、夏の学校などの活動を通じて増えてきている。

2月に支部事務所のパソコンをインターネット接続に接続し、支部のメールリストで会員に行事案内などを流した。また、ホームページを支部ニュースの発行などにあわせて更新した。支部ニュースは例年並に7回(No.273-279)発行した。

会費の滞納解消に努力したが全国には 月分までの納入で ヶ月の滞納となった。今期は、本部前納による活動還元金を受け取ることはできなかった。会員の会費納入の便利さと支部財政の安定化のため、郵便局の会費自動振り込み制度の導入を検討した。

—2005 年度活動方針—

1. 地域や道民生活に密着した課題に積極的に取り組み、その活動成果を地域・職場に還元する

(1) 北海道科学シンポジウムをはじめ、研究成果の報告や交流を行う各種のシンポジウム・講演会を開き、それらの成果を印刷・刊行して普及を計る。

- ・本年度の科学シンポジウムは、常任幹事会等でテーマ、開催場所・日程等を検討する。
- ・地球温暖化問題などでの連続フォーラムを関連団体と共同で開催することを検討する。

(2) 諸課題の委員会、研究会活動をさらに進めるため、多くの会員の参加を呼びかけるとともに会員は積極的にこれらの活動に参加する。

- ・公害委員会は委員会の体制を整え、廃棄物問題など必要に応じて検討をすすめる。
- ・原発問題委員会は、エネルギー問題の研究も含めてそのあり方を検討する。
- ・千歳川治水問題検討委員会は、引き続き国、道などの動向に注意していく。
- ・災害問題研究会は、各種災害における被災者支援制度等の研究に取り組む。
- ・昨年度つくられた地球温暖化問題勉強会は、引き続き研究を進める。

(3) 科学・技術政策についての情報を集め、それについてのワーキンググループをつくることを目指す。

昨年度設立された大学問題研究ワーキンググループにおいて大学問題について研究をすすめる、シンポジウムの開催を検討する。

(4) 市民講座などの開催をめざし、科学者会議の活動成果の普及に努める。

2. 平和と民主主義、科学者の権利を守る運動を積極的に展開する

(1) 平和を守る科学者としての自覚を高める運動および平和憲法擁護の運動を進める。支部としては、全国の方針提起を受けて、具体的な企画を検討する。

自衛隊のイラク派遣や有事法制の具体化に反対する活動をすすめる。

(2) 世界のすべての国から核兵器を廃棄する事を願い、わが国に非核の政府を樹立するよう努力する。

(3) 大学・試験研究機関における研究者の地位と権利を擁護するための闘いを進める。

(4) 日本科学者会議の一層の発展のために道内民主的諸団体との共同活動を強める。

3. 全国企画への参加を積極的に行い、他支部との交流を進める

(1) 原水禁・科学者集会および「夏の学校」に向けてカンパを募り、参加者を早めに決定する。

(2) 本年12月開催される ECSTA（アジアにおける科学・技術の交流、協力）へ積極的に参加する。

(3) 全国の研究委員会等への積極的な参加、連携を行う。

4. 班、分会を中心に、活発な活動を行い、個人会員の活動を含めて支部活動を盛りあげる

- (1) 班・分会の世話人体制を確立し、大会・幹事会への参加をすすめる。
- (2) 各班は支部ニュースの確実・迅速な配布等のために一層努力する。会費の自動振り込み制度の利用について検討する。
- (3) 個人会員の集まり・交流を活発に行う。
- (4) 常任幹事会は班、分会を訪問し、意見の交換を行い、支部及びそれらの班・分会の活動にプラスするよう努力する。
- (5) 大会、幹事会等にあわせて会員研究談話会を開く。

5. 会の拡大に一層努力し、組織を強化する

- (1) 支部行事や班活動の中で意識的に会への加入促進に取り組む。「日本の科学者」の読者の勧誘もすすめる。また、全国の会拡大運動の提案を積極的に受け止め支部としても推進する。
- (2) 若手会員の活動の活発化と加入促進を計り、院生・若手研究者との接触を広げ、成長を助けることに格段の努力を払う。
- (3) 支部ニュースの発行は出来るだけ定期的に行い、全会員に速やかに配布する。支部の行事ばかりでなく、全国規模・北海道各地域の各種の催しや刊行物の案内など、できるだけ多くの情報を支部ニュースに載せる。このため各地からの情報提供をお願いする。
- (4) 幹事会は年三回（支部大会後、9または10月、2または3月）開催する。
- (5) 会員名簿の改訂版を発行する。
- (6) 支部ホームページの充実をはかり、支部及び本部ホームページの活用を会内外に広める。
- (7) メールによる会員への情報発信を強める。

6. 財政活動を強化する

- (1) できるだけ会費前納をすすめ、支部財政の充実に努める。そのための募金活動を行う。
- (2) 会費自動振り込み制度を導入し、多くの会員の利用を推進する。
- (3) シンポジウム、市民講座などの事業による収入増をめざす。
- (4) 希望者に対し支部ニュースのメール配信を行い、経費削減をはかる。

7. 支部創立40周年事業を企画・実施する

別の議題として提案する。

—その他の議題—

1. 支部創立40周年事業

事業企画委員会を設置し、記念講演、出版事業などについて検討し、実行する。

事業企画委員会は、事務局長経験者、常任幹事及び院生会員等の会員の中から若干名の方に依頼する。

2. 支部財政対策

(1) 会費自動振り込み制度の導入

会費収入の安定化をはかるため、2006年度から郵便局を利用した会費自動振り込み制度を

導入し、会員に積極的な利用をお願いする。

(2)募金活動

支部財政の運転資金を確保するための募金活動を行う。

3. 2004年度会計報告・会計監査報告及び2005年度予算

大会当日資料を配付します。結果は大会報告とともに次号の支部ニュースに掲載します。

2005年度JSA支部大会のお知らせ！

2005年度JSA北海道支部大会を下記の通り開催します。代議員の方はご出席下さい。

代議員が出席できない場合は委任状を必ず提出してください。

代議員以外の会員の方々も積極的にご参加していただき、ご意見等をお聞かせ下さい。

記

日時： 2005年5月15日（日）9：30～14：00

場所： 北大工学部社会工学系第二会議室 A151（工学部正面玄関入り1階左手奥）

報告及び議題：

1. '04年度支部・班・委員会等活動報告
 2. '04年度会計及び監査報告
 3. '05年度支部活動方針案及び予算案
 4. 支部役員及び全国大会代議員選出
 5. 全国大会議案意見交換
 6. その他（支部40周年行事、支部財政対策など）
- ※終了後第1回幹事会を開催します（短時間で終わります）。

会 員 研 究 談 話 会

大会終了後下記の会員からの話題提供に基づく談話会を開催します。こちらへの積極的な参加もお願いします。

話題： 姫宮利融氏（稚内北星大）「『技術』のことばの由来」

日時： 同日 14:30-15:30

場所： 同場所

大野陽朗先生に捧げる

渡辺 昂

大野陽朗先生は初めてお会いした当時から、物理学の大先輩であると共に私の心の友でした。宮原将平先生のお見舞いに伺ったのが、多分17-8年前の寒い2月始めではなかったでしょうか？八王子の東京医大の医療センターでしたね。帰りに僕が寂しさのあまりつい「宮原先生保たないな？」と云ったら、大野先生は「いいか！俺は宮原の分も頑張るぞ！」と厳しい口調で言われて別れたことが思い出されます。

何時も冗談でかわされる先生が、この時はみじんの隙もなかったような気がします。でも大学ではおおらかで多彩な才能の持ち主でした。僕は学部の原書購読でランダウの統計物理学の英文を使っているのを見て、先生は「ランダウはなロシア語の原著でやった方が判りやすい」こんなに云われてショックを受けたことがあります。また僕の研究室で話しをされて先生が出て行かれた後に、大野先生の手帳が残っていたことがあります。先生の研究室に届けると、先生は「おい！これ見て判ったか？」「他人の手帳覗いたりしませんよ！」と僕が云うと、「いいかこれはな、用件が問題別にロシア語、ドイツ語、フランス語、ラテン語とこんな風に分けて書いてあるんだ。だから他人に見られても多分判らんだろうな？」各国の言葉が全部筆記体で書かれている！いや僕にはどうも及ばない語学の才能の高さにはひたすらに驚きました。北大をお辞めになる直前には、衝撃波に関わる大きな仕事をされたように記憶しています。でもこれは私とは余りにも分野が離れすぎているので、たしかなことは判りません。

北大を辞められてから、むしろその後先生は私の研究室にお出でになる機会が多かったように思われます。当時先生はエネルギー問題に深い関心を持たれ、その議論でお出でになることが多かったようです。ところが一方では「語学はやることが少なくなって来てな、今スワヒリ語やっているんだよ！」この話には些かまいった覚えがあります。私にとって北大に来る大きな力になったのは宮原将平先生でした。学問的には物性という共通の分野で、宮原先生からは思想的にも大変大きな影響を受けました。その宮原先生と学生時代のクラスメートであったのが、宇宙研究室を創られた大野陽朗先生です。

この二人の先生に共通しているのは、個性は全く違うけれども、おおらかで多くの人を包み込む豊かなお人柄である事ではないでしょうか。宮原先生は大変早くお亡くなりになり、その分大野先生には40年の長きにわたって、深く広い教えを受けることが出来たと思います。

05、3、 7。